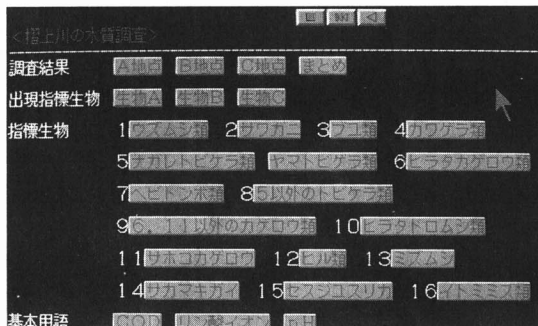


## 環境教育で活用できる水質調査のデータベース

科学技術教育部情報処理教育係

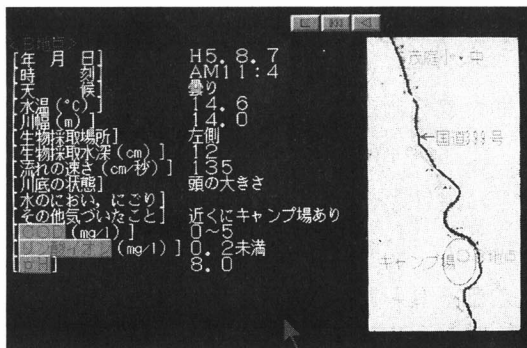
各学校において環境教育の一環として、近くの河川に生息する水生生物の種類から、水質を調査することが盛んに行われています。その調査されたデータは、授業でどのように活用されているでしょうか。



ソフトのメインメニューの画面

### 開発のねらい

- 調査したデータをデータベース化し蓄積することにより、生徒の調べ学習に役立つ。
- 各学校で作成されたソフトをお互いに交換することにより、各地域の河川の水質状況がわかり、比較検討する学習ができる。



調査結果についての画面

### ソフトの特徴

- ワープロでデータベースのソースファイル（テキスト形式）が作成できる。
- 検索用のキーワードを自分で設定でき、ハイパーテキスト的に検索できる。
- パソコンの画面に、簡単な図や写真が張り付けてあり、わかりやすい表示になっている。

### データベースの項目

- 調査年月日、場所
- 調査結果（水温、川幅、生物採取所、流れの速さなど）
- 採取された水生生物の種類
- 水質の指標生物の種類と説明

### 【「水生生物による水質の調査法」

（環境庁水質保全局編）参照】



指標生物の説明の画面

このソフトを実行、または開発するためには、FCAIシステム（学習ソフトウェア情報研究センター提供）が必要です。このFCAIシステムは、当教育センターの講座でも活用しています。

※ このソフトウェアを実際に授業で活用してみたい方はセンターまでご連絡ください。